

1988・3・18 小笠原沖皆既日食洋上観測記

我々「五島プラネタリウム日食隊」は、村山 定男氏を始めとする日食洋上観測ツアー「にっぽん丸」に乗り込み、3月18日の日食観測を行った。

1. 準備期間について

準備から船の出航までのことを、簡単にふれておくことにする。昭和62年秋、読売旅行主催・小笠原沖日食観測ツアーの計画を知る。上司との掛け合いでプラネタリウムから木村・米道が参加することが出来た。10月には、五島プラネタリウム星の会からも参加者を募り、11月上旬には星の会参加メンバーが集まった。その他、東京理科大学天文研究部、元日大金環日食訪中団を含め、総勢30名を越えるグループとなった。

1月下旬：顔合わせ会の通知、及びアンケート用紙を送る。アンケートは、誰がどのような観測をするのか調査するためである。

2月上旬：第1回顔合わせ会を行った。旅行に参加するにあたり、このグループの名称を「五島プラネタリウム日食隊」とし、プラネタリウムでアドバイスをを行うことになった。それぞれの自己紹介が終わったあと、天体観測は初めてという人もいるので、観測についての話や、資料を配布した。

2月中旬：船の移動による接触予想時刻の計算のために、横浜こども科学館の遠山氏よりプログラムを提供していただき、船内にPC9800を持ち込む事になった。

3月上旬：最終メンバー38名が決定。第2回打合せ会を行う。質問の受け付け、観測の調整を行った結果、ビデオ・写真と何をするのか、大体の人が決まった。また「五島プラネタリウム日食隊」でTシャツを作り、日食当日みんなで着ることになった。

Tシャツのデザインは
青柳 玲子さん



2. 小笠原沖日食観測ツアー

3月16日

それぞれの思いを乗せた「にっぽん丸」は、晴海埠頭を出航。天気も上々よい船出となった。当日2人の参加者を欠いただけで船の中は、大騒ぎになった。船内では村山先生の講演をはじめ、天文・航海術・小笠原の自然について等、盛だくさんのイベントが組まれていた。

外洋に出ると、たちまち船が揺れ始めた。低気圧の通過によるものである。3時間おきに入ってくるウエザーニュースによると、日本の南岸添いに低気圧による前線が延びているとのこと。なんと、展示用の16Cmの架台が倒れるくらいなのだから、相当にひどい揺れだったのがわかるだろう。この低気圧の影響で2日間ぐずつき、ようやく晴れ間が見え出したのは出航2日目の夜だった。待望の星座観察も行われ、石橋先生による解説もあった。この日、南十字星を見つけるのにオープンデッキでずいぶんねばったが、とうとう見つけることができなかった。

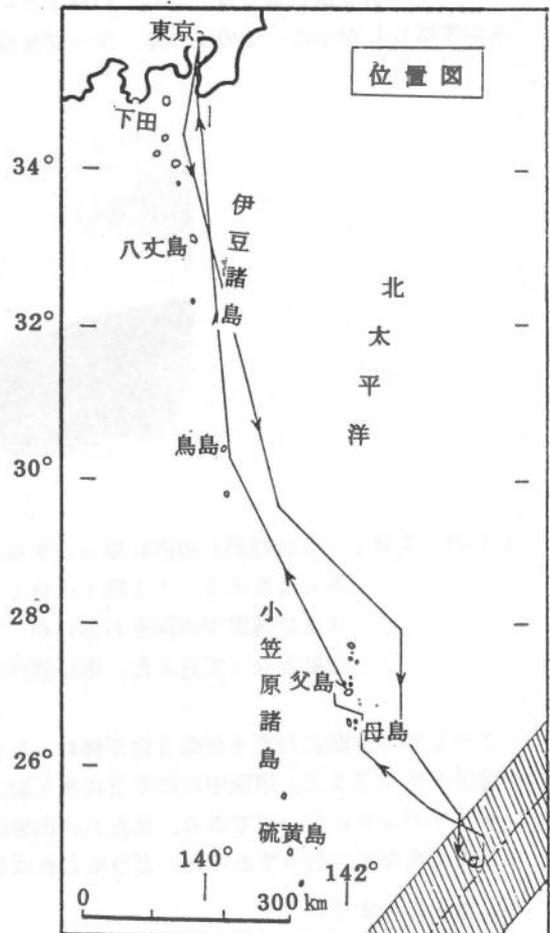
3月18日

日食当日の朝、「晴れているよ!」と言う声で目をさます。日の出を見ようとあわててカメラを持ってオープンデッキに出る。晴れてはいるが、やはり前線が残っているせいか厚い雲が水平線に重くたれこめている。

午前6時:「にっぽん丸」はまだ皆既食帯に達していない。

8時:朝食(お弁当)のあと、JJYと船内放送のテストが行われる。甲板には、観測場所がきちんと区切られており、(観測場所については、17日抽選会が行われ、既に指定済みである。)それぞれが観測場所に機材を並べ始めた。ビデオ有り、望遠レンズで黒い太陽をねらう人、双眼鏡で楽しむ人、観測方法は様々であるが、見る人の顔は紅潮し期待に胸を踊らせるといった感じがする。

10時:太陽が右下から欠け始めていった。まだところどころに雲はあ



にっぽん丸 日食観測 小笠原クルーズ航跡図
昭和63年3月16日~3月21日

るが太陽の見えるところには、雲ひとつない快晴だ。J J Yと村山先生の熱っぽい声が聞こえている。

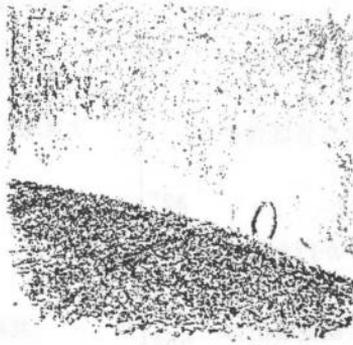
10時半：後方から大きな雲がやってきた。船は進路を変えながら晴れ間に出る。これからは雲との追いつけこたえだ！

11時：あたりが暗くなるのが感じられるようになった。気温もだいぶ下がって、海からの風も冷たくなった。太陽はもう三日月程の太さもない。いよいよ第2接触だ。

11時10分：スピーカーから聞こえてくる声に力が入る。まだ・・・まだ・・・！

「ダイヤモンドリングです！！」の声に重なるように一斉にシャッターの音が聞こえる。と同時に、大きな歓声と拍手が湧き上がった。

コロナは、極小期でこれまでにない特徴的な姿をしていた様に感じる。細い細いまさに白銀の髪の毛が太陽の回りを包んでいる。あるものは真っすぐに伸び、太陽の北側のコロナは何かにつまみ張られてカーブしているように見える。また、2ヶ所に見えたプロミネンスがすばらしかった。その1つは、ループを描き2重になっているようにも見えた。



11時14分：「3分経過」の声にはっとする。間もなく右下からダイヤモンドリングがみえるだろう。11時14分14秒、全てが終わった。黒い太陽を惜しむように薄雲が太陽をおおいかくす。その時雲に反射した光が太陽のまわりで虹となって見えた。再び歓声があがる。

こうして3分間にわたる皆既日食が終わったのである。第2接触から見えていたコロナや金星・木星など。階既中には本当に水平線が赤く染まった。一番興味を引いたのが、シャドーバンドについてである。見た人の印象は様々で、濃い、淡い、広がっていた、点々と見えたなど、色々であった。どうもこれはシャドーバンドというお化けなのではないかと思ってしまう。

正午過ぎ「にっぽん丸」は北へ進路をとり、一路東京へと向かった。

3月19日

今日はようやく陸に上られる日である。東京のなかで唯一南十字星が見えるところ、父島。陸での1日はあっという間で、再び乗船しなければならない。島の人たちがいつまでも見送る中、「にっぽん丸」は出航した。島の人たちと一緒に、くじらまでが見送りにきてくれたのはうれしかった。

3月20日

長いようで短かった船旅も今日1日で終わりである。明日の朝には東京晴海に着いているはずである。

3月21日

船の揺れが急に無くなった。湾内に入ったようだ。外は曇り。とても寒そうだ。ゆっくりゆっくり船は進んでいく。船内アナウンスが入り、荷物を持った乗客が1人また1人とタラップを下りていく。最後まで甲板で見送っている船員と村山先生。後ろを振り返りながら、それぞれが家路に着いた。

小笠原沖皆既日食データ

観測地点	北緯 24度59分	
	東経 143度44分	
第1接触	9時49分38秒	
第2接触	11時10分40秒	
第3接触	11時14分14秒	皆既日食時間 3分34秒
第4接触	12時33分54秒	

五島プラネタリウム日食隊

米道 薫